

## 第 9 回阿蘇草原再生協議会議事概要

開催日：平成 21 年 8 月 21 日（金）

時 間：10：00～12:30

場 所：南阿蘇畜産農業協同組合家畜市場（阿蘇郡高森町色見 2 2 4 1）

出席者：協議会構成員 / 43 団体・法人、15 個人

出席者合計 141 名

（協議会構成員 90 名、傍聴 4 名、報道 5 名、南阿蘇畜協関係者 42 名）

### 1．開会（司会 / 九州地方環境事務所国立公園・保全整備課課長 岡野氏）

### 2．あいさつ

- ・ 阿蘇草原再生協議会会長 高橋佳孝氏
- ・ 南阿蘇畜産農業協同組合代表理事組合長 塚元秀典氏
- ・ 熊本県阿蘇地域振興局農業普及・振興課長 田口耕太郎氏

### 3．議事

#### （1）新規加入構成員について

- ・ 構成員として井農夫弥氏（南小国町矢ヶ部部落牧野組合長、農家レストラン経営）の新規加入を承認。
- ・ 熊本県の組織改編による構成員登録の変更（2 件）を報告。
- ・ 新規加入構成員からあいさつ。

#### （2）ロゴマークの選定、商標登録について

- ・ ロゴマーク優秀賞受賞者の表彰（表彰状等の送付）及びロゴマーク商標登録の進捗状況について報告。（事務局）
- ・ 商標登録の出願準備を進める中で類似マークが既に出願されていることが明らかになったため、再選考を行うこと、及び幹事会で絞り込んだ 2 案からこの場で出席者の投票により決定することを会場に諮り、賛同を得る。（議長）
- ・ 直ちに投票用紙による投票を開始し、結果は（5）の議事において報告する旨を告げる。（議長）

#### （3）阿蘇草原再生に向けた活動結果報告、表彰

- ・ 第 8 回協議会後の幹事会、小委員会の開催状況、「活動結果報告」の評価・表彰の仕組みと「草原再生レポート」へのとりまとめについて報告。（事務局）

#### < 各小委員会からの活動結果の評価についての報告 >

牧野管理小委員会（笹原委員長代理）

- ・ いずれの計画も阿蘇の野草地保全・再生に貢献したことが認められた。しかし、高齢化や後継者不足が深刻な牧野組合の状況を見ると取り組みは十分とは言えず、国・県・地元行政が参加している協議会による人的・資金的支援等の必要性が指摘された。
- ・ 奨励賞には、草原保全・再生への貢献度と発展性を評価し、「牧野組合ごとのカルテ作成支援」、「野焼き・輪地切り支援ボランティア活動」、「日の尾・長野牧野の野草地再生

(野焼き再開)事業」の3件を選定した。

生物多様性小委員会(今江委員長)

- ・ 自然の基本がおかしくなっていており、「いろいろな生き物が生育・生息している環境」を大事にする視点が求められる。当小委員会としては、たくさんの花が咲き乱れる草原を再生する「阿蘇花野再生プロジェクト」を奨励賞に選定した。昔のやり方を再現することで良い結果が出ていること、それを継続していることを評価した。

草原環境学習小委員会(池辺委員長)

- ・ 草原再生を目指して、地元の子供たち、一般の方、観光客等を対象に色々な学習活動を展開していきたい。今回の計画は参加体験型が中心で、各団体の特徴を生かした創意工夫が感じられる。今後はより多くの参加者を集め、活動を広げていくことや、地元の方との連携をさらに深めていくことを重視し、奨励賞には、「阿蘇の草原を守るために『野草紙を作ろう』プロジェクト」、「阿蘇の火山体験学習」、「阿蘇の草原物語 秋編・春編」の3件を選定した。

野草資源小委員会(市原委員長代理)

- ・ 奨励賞には、草資源利用の先行事例として波及効果の高さを評価し「阿蘇草原再生シール生産者の会による草原再生普及啓発イベントの開催及び野草採草の拡大に向けた調査」を選定した。
- ・ また、今年度が5ヵ年計画の最終年度となる「草本系バイオマスエネルギー実験事業」の評価のためのアンケート調査についての報告・協議を行った。関係者それぞれが、PRや自助努力を強めていく必要があり、そのためには、相互の連携、阿蘇草原再生協議会によるバックアップが必要だ。

草原観光利用小委員会(阿蘇地域振興デザインセンター井山氏)

- ・ 当小委員会は、デザインセンターが事務局となって、活動を進めている。草原をどのような形で観光利用できるかを協議する場として位置づけていきたい。
- ・ 阿蘇ではエコトレッキングというエコツアーが流行っている。観光客からのガイド収入を草原の有効利用に回せないかと考えている。今後は、旅館組合、観光協会との連携についても考えていきたい。

#### <活動の表彰>

- ・ 奨励賞8件の選定について報告されたが、22件の活動は、優劣つけるべき内容ではない。それぞれが賞賛に値する貴重な活動であると考え、拍手をもって讃えたいと思う。(議長)

#### <奨励賞受賞者からの一言>

牧野組合ごとのカルテ作成支援(九州地方環境事務所 神田所長)

- ・ カルテは、牧野組合とともに牧野の基礎情報をまとめて、今後の草原再生の手がかりを考えていくものであり、環境省としては、さまざまな支援を行う際の判断材料としても役立てたい。
- ・ 昨年度までに11の牧野組合と協力してカルテを作成。本年度も、4牧野組合で作成予定。
- ・ 今後は、協議会の枠を超えた牧野とも連携したいと考えている。

野焼き・輪地切りボランティア支援活動（阿蘇グリーンストック 山内氏）

- ・ 年間延べ 2000 名弱のボランティアが参加し地元住民とともに、野焼き（約 5000ha）輪地切り（約 160km）を実施している。本年度は、10 数箇所の輪地切りに取り組む。
- ・ 安全第一を心がけ 11 年間無事故でやってきた。今後も地元の人たちと協力してやっていきたい。

野焼き再開 / 日の尾牧野、長野牧野（阿蘇グリーンストック 山内氏）

- ・ 一の宮町日の尾牧野で 10 年ぶり（約 60ha）長陽の長野牧野で 12 年ぶり（10ha）に野焼きを再開した。野焼き再開は、初めの 1 回が重労働。今後は安定して継続していけると思う。
- ・ 安全に野焼きを行うためには、地元の人たちとの連携の仕方が非常に大切なので、今後も気をつけながらやっていきたい。

阿蘇花野再生プロジェクト（阿蘇花野協会）

- ・ 代表者欠席のため省略。

阿蘇火山体験学習（阿蘇火山博物館 池辺館長）

- ・ フィールド学習を中心に、博物館だけではなく、周辺の草千里、杵島岳、中岳周辺も含めた学習活動を行っており、昨年は、約 7000 人の利用があった。最近は、地元や九州周辺の小学生に加え、関東周辺からの中学生、高校生も増えている。火山だけでなく、草原や草原と環境との関わりなどについて学習したいという要望が増えており、博物館としても応えていきたい。

阿蘇の草原物語 秋編・春編（国立阿蘇青少年交流の家 事業推進課長 紫垣氏）

- ・ 学生（高校生以上）一般の人を募集して、草原を体験しながら草原の現状について学ぶ「草原環境学習」を実施。秋編では輪地切り・輪地焼き体験、春編では、火消し棒づくりなども含めた野焼き体験等の学習を進めている。参加者からは、初めての体験で非常に興味深かったという感想が聞かれ、初心者に対する学習効果の高さを感じられる。
- ・ 今年度からはショート・プログラムとして草原キッズ・プロジェクトに組み込んでいく予定。

阿蘇の草原を守るために「野草紙を作ろう」プロジェクト（九州バイオマスフォーラム 中坊氏）

- ・ 草原の草から紙を作って卒業証書に使うことで、草原の担い手となる子どもたちが、草原のすばらしさ、草原の恵み、草原の成り立ちなどを学べる教育プログラムを目指している。
- ・ 阿蘇全域の小学校でこの活動をプログラムとして定着させる計画を練っている。

阿蘇草原再生シール生産者の会による草原再生普及啓発イベントの開催及び野草採草の拡大に向けた調査（阿蘇草原再生シール生産者の会 市原氏）

- ・ 阿蘇の野草を堆肥として使った野菜等にそのことを示すシールを貼って付加価値を高め、消費者に少しでも高く買ってもらうことで生産者の苦勞を支援してもらおうという取り組みである。
- ・ 会員は、草刈り機械が使えない場所の草も活用している。そうした努力が、草原の保全に少しでも貢献していることを消費者に知ってもらいたい。

#### （4）新規活動計画（案）について

- ・ 12 件の計画が継続実施中であるが、新たに 12 件の活動計画案が提出されており、テーマに

合わせて担当小委員会で審議されたことを説明。各小委員長に審議結果の説明を求める。(議長)

牧野管理小委員会(笹原委員長代理)

- ・ 6件の新規活動計画案について協議し、適正と認めた。
- ・ このうち「草千里の草原再生等事業」(阿蘇市)は、樹林伐採後の草原再生及び管理方法について具体的な検討の必要性が指摘された。

草原環境学習小委員会(池辺委員長)

- ・ 6件の新規活動計画案について協議し、適正と認めた。
- ・ 草原環境学習小委員会として、地元の子供たちにもっと阿蘇を学んでもらう「草原キッズ・プロジェクト」に取り組んでいる。阿蘇独自の学校教育の中でのカリキュラム化を目指しており、小委員会及び協議会構成員の力を借りつつ、阿蘇の学校教育に寄与していきたい。このような学習活動の実施に前向きな学校は確認されたが、小委員会側の実施体制づくりが課題。
- ・ 本日「草原環境学習への参加・協力に関する意向調査」を予定しているが、結果は、草原環境学習人材バンクの仕組みづくりに生かしたい。
- ・ 平成21年度の主要プロジェクトとして、10月に国立青少年交流の家主催のショートスクール「阿蘇の草原キッズ」を計画している。

他の小委員会から

- ・ 阿蘇の草原の大切さや草原の多様性などについて認識するには、実際に体験することも重要。その意味で、牧野組合カルテは、地元の牧野に目を向ける機会を提供するとともに、草原が記録に残るという意味もある。観光客を案内するトレッキングは、阿蘇の草原の素晴らしさを伝えられるだけでなく、モニタリング等の効果も見込めるが、盗掘等につながる恐れもある。このため、マナーやルールを定め、参加者に対し普及啓発を図りながら、慎重に進めていくことが重要である。(生物多様性小委員会/今江委員長)
- ・ 阿蘇草原再生シール生産者の会では、今年度の新たな事業として、野草を買い取って消費者に少しずつ分配して家庭菜園などに利用してもらうことを考えている。(野草資源小委員会/市原委員長代理)

新規計画案の承認

- ・ 会場から質疑、意見等を求めた上で、拍手により、12件の計画案すべてを承認した。(議長)

(5) ロゴマークの利活用について

<ロゴマーク投票結果発表>

- ・ B案に決定(A案:26票、B案:48票)。図案は部分的に修正を加えたのち、商標登録の手続きを進めることとする。(議長)

<ロゴマークの利活用について>

- ・ ロゴマークを使用する目的、マークが示す5つの内容、運用の基本的な考え方、使用規則(案)の概要等について説明。(事務局)
- ・ 会場からは特段の意見なく、拍手により、使用方法、使用規則(案)を承認。「使用の手引き」は完成次第全員に送るので、大いに利活用し、世の中に広めていきたい。(議長)

#### (6) 阿蘇草原再生募金の創設について

- ・ 第8回協議会での意見から得られた、募金の基本的な考え方、募金の方法、募金の使い方等について説明。またこれらの意見を受け、今年度の幹事会で、募金全体の枠組み等の検討を行い、当面の検討課題が浮かび上がったこと、今後は地元市町村での合意形成、観光商工業関係者の協力が重要との意見が出ていることなどを報告。(事務局)
- ・ 次回協議会で募金の規約を決定して立ち上げるスケジュールで活動していくことを確認。(議長)

#### (7) 意見交換(情報交換) 会場より発言

阿蘇の世界文化遺産登録は、阿蘇草原再生協議会の目的と方向性が一致

- ・ 県と阿蘇郡市7市町村が協力し、阿蘇の世界文化遺産登録に向けて取り組んでおり、平成19年9月、世界遺産暫定候補に立候補。暫定一覧表への記載は見送られたが、候補地登録に必要な文化財指定等を目指し、7月1日、阿蘇世界遺産推進室を開設、8月5日、世界文化遺産登録推進協議会を設立。今後は、資源の学術的調査、住民への啓発事業を進める。
- ・ 阿蘇の世界遺産登録の大きなテーマは、「火山地帯に5万人が生活していること」「阿蘇の草原景観」であり、草原再生協議会の目的と方向性が一致する。(熊本県教育庁文化課/中山氏)

樹林地に関わる制度(保安林)の見直しについて協議会で議論したい

- ・ 省力化、安全性の向上のため、牧野内の樹林地を元の原野に再生したいが、水源涵養林等の保安林指定があるため伐採できない。制度を見直せば、多くの牧野が助かると思うので、協議の議題に入れてほしい。(新宮牧野組合・阿蘇ホテルの会/湯浅氏)

阿蘇の草原は、樹林地より高い水源涵養機能を持つと思われる

- ・ 阿蘇のようなカルデラの場合、森が多いと地下の水が蒸散してしまい地下水が減少する可能性があると考えられるが、科学的には証明できていない。熊本の地下水の量は減少傾向にあり、調査研究が必要。阿蘇の場合は、おそらく草原が増えると地下水が増えるという認識を持つことが必要ではないか。(NPO法人地域自然情報ネットワーク/逸見氏)

阿蘇の草原とあか牛の共存、発展を望む

- ・ 南阿蘇地域では、約10名が地域内一貫の肥育経営を行っており、阿蘇の草原とあか牛が共存して発展していくのを非常に望んでいる。協議会のさらなる発展を願う。(南阿蘇畜産農業協同組合理事/肥育農家)

#### 4. その他

- ・ この場で予定している2件のアンケート(協議会事務局による「阿蘇草原環境学習への参加・協力に関する意向調査」、阿蘇市による「NEDO 草本系バイオマスエネルギー実験事業の評価のためのアンケート調査」)の実施方法を説明し、協力を依頼。(事務局)

#### 5. 閉会